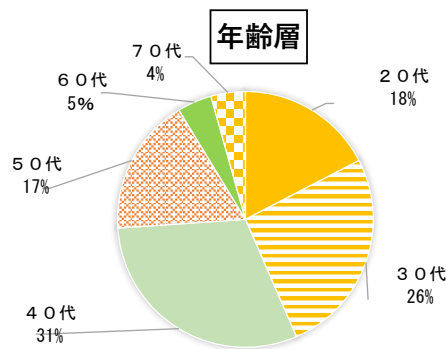
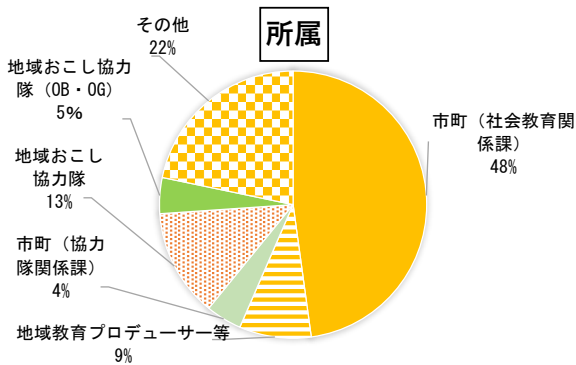


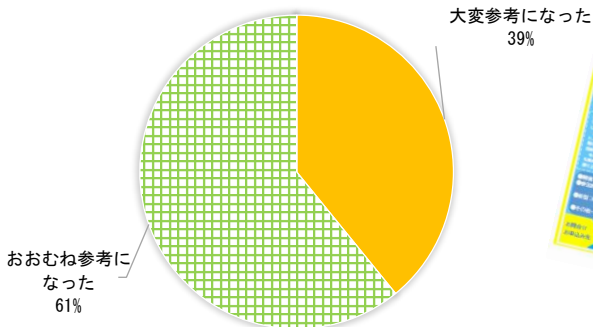
令和4年度「地域教育プロデューサー配置支援事業」市町等対象事業説明会

アンケート結果及びQ&A

〔アンケート回答者23名〕



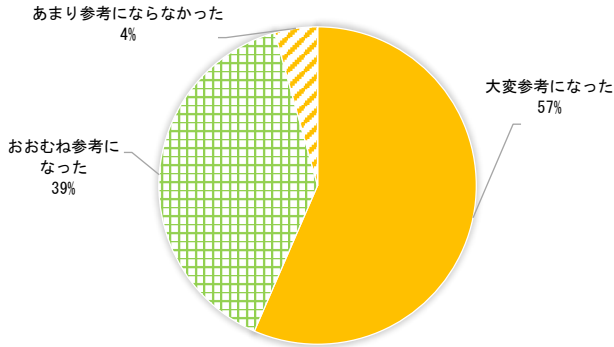
Q1 事業説明について



【理由】

- 事業の制度概要から事例紹介等、参考となる部分が多くあり勉強になった。
- 今回は、地域おこし協力隊の主管課からの説明や起業・就業後の事例もありとても分かりやすかった。
- 事業の動向、県の動向を把握できる貴重な機会なので、とても重要であると認識している。
- 教育委員会が地域教育に注力するかどうか、活動の土台となる学社連携の有無によって事業の成否が決まってくるように考える。地域おこし協力隊が地域振興に一石を投じているように、その手法を教育にも応用できると感じる。
- 地域づくりをする上で地域おこし協力隊をさらに有意義な活動を与える事業は良いことだと思った。地域内部のことをさらに知ることもできるし、外部との関わりもでき広げられるのでとても参考になった。
- 社会教育の現場からできることを考えるきっかけになった。
- 私自身、地域教育プロデューサーなのに知らないこともたくさんあった。せっかくの事業なので、今回の資料をまとめて、登録認定の際に改めて配布いただけるといいと思った。こういう立場の人がいるから活用してほしい、というのを学校へ周知するのが重要だと思うので、パンフレットのようなものを作成して、プロデューサー本人にはもちろん、各学校や地域に配布いただいてもいいと思った。
- 学校教育課と社会教育課で担当部署が違うのかもしれないが、ぜひ学校教育現場でも認知を深めていただきたい。
- 今回の説明対象を（現・元）地域おこし協力隊に向けてとするか、配置を進める行政向けか、またその両方かによって、内容について伝え方が変わってくるのかなと思うが、今回はそのどちらに対しても参考になるものであったと感じた。あとは「プロデューサー」というものについて、それはどのようなものを想定しているのかが、言葉から受ける意味合いと実際のところがやや離れてしまうのかなという感じを受けている。実際のところは「コーディネーター」なのでは。
- 今回は地域政策課の方にも来ていただき、地域おこし協力隊についての説明をしていただけたことは、連携する上での大きな一歩だと思う。
- 研修会以前は、社会教育主事や地域魅力化コーディネーターとはどう違うのか、自分のなかでよく分かっていなかったのだが、県としての見解や思いを知ることができたのがよかった。
- △資料にそもそもの対象者（地域おこし協力隊）を記載していただければ、より分かりやすいのではないかと思います。
- 何も知らない人がこの資料を見た時に、誰でもなれるのでは？と勘違いされそうである。
- △前回と説明会の内容がほぼ変わっていなかったため、新たな情報がなかった。

Q2 事例発表・質問タイムについて



【理由】

- 教育機関に勤務する立場から、事例発表は大変参考になった。
- 事例を題材に自分たちの地域のことを振り返ることができた。
- 西予市の取り組みを知ることができた。どのような事例があるかよく分かった。
- 地域教育プロデューサーとして着任してからの学校側のリアクションや、地域教育プロデューサーとしての心構えなど、実際に当事業を実施する際の参考になった。
- 西予市における地域教育プロデューサーの業務内容、取組にあたり当初困難だったことが分かり大変参考になった。
- とても参考になった。西予市の事例はとても素晴らしい協力隊員さんが試行錯誤されながら奮闘していることがよく分かった。もっと活動の詳細を伺ってみたい。
- 登壇者のお三方がとても丁寧に回答されてとても分かりやすかった
- 西予市の公営塾導入の事業スキームを知ることができ参考になった。一町一校の自治体でない導入は難しいことには変わりないが、3校で包括的に導入する形は良いと思う。一方で公営塾スタッフの雇用を協力隊制度に頼ると任期後の出口戦略が必要になると思うがその点が知りたい。
- 本事業のモデルとして、詳細な活動内容を認知することができた。
- 行政側が、施策や全体像を伝え、プレイヤー（プロデューサー）が現場の話をするという建て付けが、分かりやすさに繋がっていた。
- ただただ、素晴らしい活動をされていると感心した。恥ずかしい話だが、西予市教育委員会の職員なのに、活動内容の詳細を全く知らなかった。もっと横のつながりをしっかりとって、教育委員会の事業に生かしていかなければと猛省した。
- 子どもの数が減り、人口減少が進む中、地域教育プロデューサーが高校や中学校等の活動に関わることで、地域にも学校にも新たな視点や刺激が加わり、何より子どもたち子どもたちの健やかな育ちにつながっていると思う。様々なプロジェクトや仕掛けをされていて、子どもたちの生き生きと活動している様子が浮かび、お二人が関わられている子どもたちは幸せだと感じた。課題も多いと思うが、今後是非長く関わっていただきたい。西予市の柔軟且つ地域の将来を考えた積極的な姿勢に感動した。
- 三瓶の動きを知らなかったもので、この機会に知ることができた。
- 本事業の実践事例や出席者の質疑応答は、今後の事業実施にあたって実務例として非常に参考になった。
- 同一の自治体で別の活動をされているお二人の発表をお伺いできて非常に有意義だった。
- 高校魅力化や地域づくりに向けた前向きな姿勢・企画など、自信もって取り組んでいることが伺い知れた。
- 教育に特化した実践とはどのようなものなのかをきちんと把握することができた。市町の担当者がどのように考えてくれるのが課題であると思う。
- 教育に特化していなければならないのかと思っていたが、そうとばかりとはいえないようで自分のキャリア（私の場合は俳優だが）のできる活動があるのではないかと感じた。

Q&A 参加者の方々からの質問に、西予市の事例発表者のみなさまにお答えいただきました。



Q1 公営塾スタッフの任期後の定住や職業に対するの施策がありますか。

A1

【西予市まちづくり課係長 片山氏】

・西予市では、地域おこし協力隊(OB・OG含む)の起業支援として活用できる愛媛県の補助事業「地域人材起業支援事業(ひめチャレの1つ)」の他、市の単独事業として、「西予市産業活性化4事業」という補助事業の中で、市内での法人設立等に対する助成の他、市内の農林水産物を活用した加工品開発や、市製品の販売促進に対する助成、また、農家民宿や農家レストラン等の開業に対する助成制度を設けております。(いずれも補助対象経費の1/2の助成 ※上限100万円)

Q2 事例発表で説明していただいた取組の目に見えるような成功体験、またやって良かったなどのお話を聞けたらうれしいです。

A2

【西予市地域教育プロデューサー 土居氏】

・探究の「菜園共創プロジェクト」で1年間一緒に活動した生徒が志望大学に合格できたことが、目に見える結果として一番の成功体験でした。本人がこれまで行ってきた生徒会活動や地域活動・探究での取り組みなどを志望理由書等にまとめる際、学校のクラス担任の先生とも連携しながら「あやくも塾」としてもサポートを行いました。身近に活動を見てきたからこそ、生徒の長所ややりたいことを客観視し、フィードバックできたように感じています。

【西予市地域教育プロデューサー 染田氏】

・プレスリリースをして報道してもらうことで、保護者や地域の方に「中学生がんばってるね」など声をかけてもらうことが増えました（という声を学校や生徒にもいただいています）。それによって、生徒たちのみならず学校や先生、地域の誇りにもつながるのではと感じています。

・職場体験の受け入れのお願いを引き受け、各事業所に直接伺った際に、「実は高校の探求でお世話になっている〇〇の母親なんです、先日の授業とても楽しかったと子どもに聞きました」と保護者の方に声をかけていただき、生徒が家で授業の話をするきっかけになっていることを嬉しく感じました。

・教育イベント「のむらーにんぐ」でも、これまで接触のなかった児童の保護者から、終了後「子どもがとても楽しかったと言っていた、普段おとなしく大人数の授業は苦手な子どもだが、オンラインが合っていたようだ」とお礼の電話をいただき、嬉しさとともに、今後も様々なアプローチや子どものアクセスしやすいチャンネルづくりが必要だと感じました。

Q3 探究や総合的な学習の時間など、中学校・高校の公式スケジュールに入り込んで（学校に取り込まれて）連携するための学校に対するアプローチは、どのように行ったのでしょうか？校長の理解や具体例を出す以外に、アプローチの相手、時期、具体的に必要なことや留意点などあったら教えてください。

A3

【西予市地域教育プロデューサー 土居氏】

・私自身が「探究の時間」に携わるきっかけとなったのは「菜園共創プロジェクト」でした。地域や大学と連携した取り組みがある程度見える化されたことで、高校全体として「探究の時間」をより充実させようという動きになり、そのためにカリキュラム設計や対外的な連携の強化を支援してほしいという依頼に繋がりました。私の場合、プロジェクトそのものは着任前に決まっていたことでしたが…何か具体的な成功事例を一つでも作れると、そこから一気に進んでいくような気がします。

【西予市地域教育プロデューサー 染田氏】

・校長先生はじめ、学校の理解があったというのは大きいです。学校教育に人手が足りていない、先生方は忙しいというのは全体の共通認識として確実に存在しているものの、ではどこまで外部の人間にお願いしていいものか？ということに対しての共通認識がなく、その部分が各学校（各教員）任せになってしまっていることが課題に感じます。

・具体的に実際どうやったのか、ということですが、私の場合ですと、まず挨拶に伺う際に「こういうことのお手伝いをします」という自己紹介の文書を持っていきました。その後、いつでもきてくれという校長先生の言葉に甘え、幾度かお伺いして学校の行事などの情報交換をする中で、「こういうことがしたいんだよね」という校長先生のお話から、「ではこういう形でやりましょう」と企画案を文書に落とし込んで話を進めていきました。世間話で終わらせず、具体的にプロジェクトを進める方法を文書として提示するのは有効だと考えます。そのような形で実際に話を進めていくなかで少しずつ学校の信頼を得て、年度末頃に校長が各先生方に「来年度の総合学習でコーディネートをしてもらうことになった。職場体験の手伝いなどもしてくれとのことだ」とご紹介いただき、職場体験の担当教員の方ともその場で挨拶をする、などの話がスムーズに進んでいったように思います。

・新しいことを始める際は特に、「学校側の都合」があることをしっかり認識し、無理のない範囲で進めることが重要と感じます。そのためにこうすれば負担が少ないのではないか、これならどうか、と案を柔軟に提示し、先生方に納得いただいたうえで進めていかなければならないと感じます。

・まとめますと、

【アプローチの相手】まずは校長先生でしたが、その後は教頭先生や担当教員と繋げてもらいました。また、地域からの持ち込み案件に関しては、校長先生・教頭先生のとちらかにアプローチし、必ず両方に共有しています。

【時期】案件があり次第すぐです。その後の進め方やタイミングは学校側と協議しながらですが、とにかくまずはアプローチしなければ始まりません。

【留意点】学校の先生は授業や部活などでとにかく多忙です。また、メールでの外部とのやり取りに慣れていない先生も多く、先生方同士の情報の共有もなかなか難しいようです。そのため、企画のお願いなどは文書をつくり直接持ち込むのが一番いいと思います。「検討して連絡してください」ではほぼ連絡が来ませんので、期日が近くなったら一度確認の連絡をするなど、迷惑にならない範囲であきらめずにアプローチすると思います。確認連絡についても、先生によっては「携帯のショートメールが一番いい」という方も多いので、そのあたりは先生ごとに一番都合がいい連絡方法を伺うようにしています。

また、私の場合、地域持ち込み企画はまず教頭先生にお伺いを立てることが多いですが、その際は文書を何部か持っていき、校長先生や関係する先生方にも確実に共有できるようにしています。ご参考まで。

Q4 もし、演劇スキルを活用するならどのような事業展開が望めそうかをお聞きしたいです。（地域おこし協力隊…東温市で「アート村」を10年がかりで創り上げるミッションを与えられています。先日の事業説明会により、地域の教育機関と演劇スキルの融合を図れたら面白いのではないかと感じました。）

A4

【西予市地域教育プロデューサー 梁田氏】

・西予市野村にも演劇経験者の地域おこし協力隊があり、先日依頼して子ども教室でワークショップを実施してもらいました。教育的観点から見れば、「演劇」というのは自己表現スキルとコミュニケーションスキル、想像力と創造力が必要な分野です。ワークショップも十分に意義のあるものですので、有料プログラム化できると思います。

・「アート村」としての事業展開で考えれば、「地域に芸術家を呼び作品を作ってもらう」「学校の授業や美術部などで地域内に展示する作品を作ってもらい、地域内のお店や施設に協力を依頼し展示してもらおう」…作品を募集するのは保育所や幼稚園、児童クラブ、高齢者福祉施設、障がい者福祉施設などもあり、展示するのは喫茶店やスーパーなどでもいいし、温泉施設などがあればそのロビーはもちろん、お風呂にヒノキの丸板に絵をかいてもらい浮かべるとか（ありがとう風呂で検索してみてください）、電車の中に掲示してもらおうとか、街の電灯につけるフラッグに採用するとか、やり方はいろいろありますね…。あとはイベント的に地域の方と一緒に大きな作品を作るとか、田園アートや花壇アートなど、やりかたは色々ありそうです。

Q5 梁田さんの話を聞いた際に、すでに地域コーディネーターのような役割をされていると思ったのですが、地域教育プロデューサーが地域コーディネーターを兼務することは可能なのでしょうか。

A5

【西予市地域教育プロデューサー 梁田氏】

・地域教育プロデューサーは地域コーディネーターを兼ねていると思っております。コーディネーターというのは調整役ですから、プロデューサー業務の中に当然コーディネート業務は含まれていると思います。人数が多ければ、プロデュースだけしてコーディネートは別の人に…となるのかもしれませんが、逆に効率が落ちそうです。そこに人数を増やすのではなく、担当地域を狭めて任せたほうが、窓口もわかりやすくプロジェクトが進みやすい気がします。

（私の場合、基本的に「西予市野村町野村」という保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校がひとつずつという範囲でやらせていただいています。これ以上大きくなると難しいです）地域教育プロデューサーという役職自体がまだ始まったばかりなので、このあたりは今後制度も整理されていくのかもしれませんが。

Q6 教育の分野で3年間ミッションに当たっていると思いますが、任期終了後、教育への関わりをどう考えていらっしゃるでしょうか。収入を得るといふ観点からは、市町職員や施設職員とならない限り、それだけで収入を得ることはとても難しいのではと思います。他の仕事に就きながら、地域教育にも携わっていくという考えなどありましたら、お聞きしたいです。

A6

【西予市地域教育プロデューサー 土居氏】

・教育以外にもやりたいことがたくさんあるので、自分自身としてのこだわりはありません。教育というより、高校生（県外生など）の生活面のサポートなどでできることがあれば…と考えたりもしています。今のミッション（公営塾・高校魅力化）については、任期中から後進を育てる環境づくりには積極的に取り組んでいきたいと考えています。（複業が当たり前の時代ですし、まあどうにかなるだろうと楽観視しています…）

